

釧路南ロータリークラブ会報

第12回 例会報告 2016.9.23 通算1648回

・点 鐘 佐藤会長

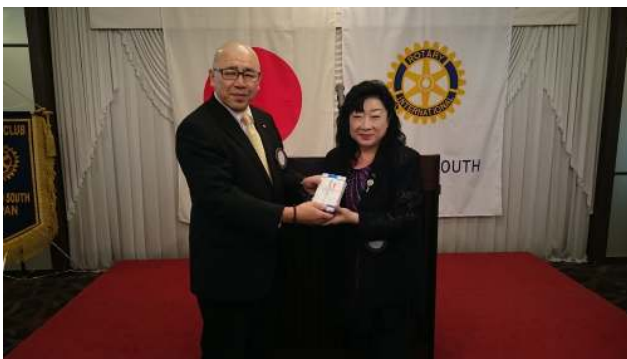
・ロータリーソング
「手に手つないで」



ソングリーダー 亀岡 孝会員

・誕生祝

工藤 ゆかり会員 S32.9.23 (59歳)
早津 壮史会員 S47.9.28 (44歳)



工藤 ゆかり会員



早津 壮史会員

・会長挨拶



辞書では、識字とは文字を読み書きし、理解できること、またその能力と書かれています。

文字を読み書きできないことを、非識字(ひしきじ)そのことが、本人に多くの不利益を与え、国や地域の発展にとっても不利益になることがあるという考えから、識字率の高さは基礎教育の浸透状況を測る指針として、広く使われています。RI会長を務められたインドのカルヤン・バネルジー氏は、「私の国でも、ここ数年、ロータリーが識字向上に取り組んでいます。」とコメントの上、人口12億のインドで識字率は約75%。識字率の問題は、主に都会から離れた地域にみられ、女性や貧しい子供が教育を受けられず非識字が多いと文章にしています。

第二次世界大戦後、世界の識字率は順調に向上していますが、まだ世界のすべての人がこの能力を獲得する教育機会を持っているわけではなく、主にユネスコなどが識字率の向上を推進しています。全ての文化で文字があるわけではなく、これまでは侵略者があるそのような先住民を未開社会と呼ぶことが多く、近年では無文字社会と言い換えることも多くなってい

ます。全世界の識字率は約75%で、母語と公用語が異なる場合(公用語が2言語以上存在する場合)や、移民が多い国ほど識字率は低下する傾向があり、例えば、アメリカ合衆国の場合、英語に限ると識字率は50%しかないといわれています。この点で、識字率を国際的に比較するには大きな注意を払う必要があります。室町時代に朝鮮通信使一行が日本に来て「日本人は男女身分に関わらず全員が字を読み書きする」と記録し、また幕末期に来日したゴローニンは「日本には読み書きできない人間や祖国の法律を知らない人間は一人もない」と述べています。日本の識字率は極めて高く、江戸時代に培われた高い識字率が明治期の発展につながったとされています。戦後、占領国の連合国は日本語表記が難しくローマ字を公用語にする案も出ていたとの記述もありましたが、日本人の識字率の高さに驚き断念、文法で英語を推奨した為、現在でも日本人はヒヤリングが下手と、学者の説もあります。この月間もよい機会です、この秋識字の深さに触れてみるのも良いのではと思います。

・幹事報告

- * 釧路ロータリークラブ創立80周年記念式典の件ですが、式典案内を再度回覧しておりますので、出欠確認出来るのであれば、登録申込書に記入お願い致します。
- * ロータリー米山記念奨学会より豆辞典が届いております。キャビネットに配布しているので、お持ち帰り下さい。また、2015年度事業報告書、決算報告も届いており回覧しております。
- * 今日例会終了後、定例理事会を開きますので理事、副幹事の方はよろしくお願い致します。

・委員会報告

親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金

工藤 ゆかり会員 誕生祝として
早津 壮史会員 誕生祝として

・本日のプログラム

「基本的教育と識字率向上月間に因んで」

担当 環境青少年委員会

◆安藤整治委員長



世界の現状

世界人口73億人のうち7000万人の子供が学校に通えず成人の5人に一人は読み書き計算が出来ないと言われています。わが日本国においては識字率100%です。江戸時代でも武士は100%、庶民でも50%の人は字が読めたといわれています。わが国は教育については大変熱心な国であったのです。(寺子屋等)さて、現在でもアジア、アフリカの最貧国では生活のため子供たちを労働力として扱いそしてこれらの国では教育予算も乏しく満足に教育が出来ない現状です。このことが職業にも就くことが出来ず貧困を生みさらに生活困窮という悪循環となり経済的文化的格差を増大しています。

さらには、非識字率の途上国における人口の爆発的な増加は更なる環境の悪化をもたらし読み書きが出来ないことで生活環境の改善が遅れさらに多くの幼い生命が危険にさらされている現状を認識することが大切だ。国際ロータリーでは下記のようなプロジェクトを立ち上げ識字率向上のためプログラムを実行している。

○ 識字プロジェクトの実際例

画期的なプロジェクトを実施する

バングラデシュではダッカのロータリークラブが実施した Concentrated Language Encounter=CLE (語学力集中研修口座) と呼ばれる識字プロジェクトが国の教育カリキュラムを革命的に変えました。プロジェクトは児童の読解力が言葉や物語を演じたり歌や踊りを通して活動的に学ぶことにより育まれ高められることを実証したのです。ロータリアンの推薦によりバングラデシュの小学校教師は教職免

許状を取得するためにCLE方式コースの終了が必須とされるようになりました。1999年6月までで3136人の教育者がCLE研修を受け357校の2157以上の教室がCLEプログラムを実施し162982人の生徒がその恩恵を受けました。

○ ボランティアとして教える

インドの非識字者の数は1951年の2億3千万人から今日の3億4千万人に増加していましたがこの増加は援助減の欠如と高出産率に起因するものです。この問題に取り組むため第3010地区ロータリアンはロータリアン、ロータリーアクター、インターアクターおよび他団体を動員してデリー学校識字プロジェクトを援助するNavjiot識字キャンペーンとなくけられた革新的なプロジェクトに着手しました。現在75校余りが携わっているこのプロジェクトの下ロータリアン・ボランティアは地元地域社会および職場において非識字者を探し出し指導しています。

○ 職場で従業員を教育する

1998年ブラジル、サンパウロのMarilia Pioneiroロータリークラブは職場での教育と呼ばれる識字プロジェクトを開始しました。本プロジェクトは、職場に識字プログラムを設立するよう地域社会の会社に奨励するものです。多国籍食品、飲料水企業、ネスルを初めとする幾つかの企業が従業員にとって都合の良い時間帯を提供しこのプロジェクトに参加しています。プロジェクトに参加している企業のひとつ、ササザキでは1500人に補修授業に登録するよう呼びかけたところ158名が登録しました。

○ 学校を救う

フィリピンのTaloy Norteという貧しい田舎の地域社会で火事が3部屋からなる小学校を焼き尽くしてしまった時Metro Baguioロータリークラブは援助に介入しました。クラブの建築家、エンジニアおよび建築専門家が現場を検査し仕様書を作成し学校の再建にかかる費用の見積を出しました。全クラブ会員および家族がプログラムの資金調達に努力しました。中には材木、セメント、ペンキ、窓、ドアを寄付した会員もいました。地域住民とクラブ会員が一体となって学校再建し教育が地域社会の社会的ニーズの永久的解決をもたらすという彼らの信念を例示したものです。

○ 海外書籍を送る

オーストラリア、ニュー・サウス・ウェールズのSt.Ives インターアクトクラブではパプアニューギニアの学校図書室のために千冊の書籍を収集しましたがどのように送ればよいか援助を必要としていました。そこでスポンサーであるSt.Ivesロータリークラブはどのようなオプションがあるか調査しました。その結果Ranfurly Book Serviceというボランティアがパプアニューギニアの町へ書籍を送る非営利団体であることを知ったのです。そこでロータリークラブが無料で本を配布しています。インターアクターの収集した書籍はRanfurlyのシドニー支部に送られロータリアンは今まで最大の書籍荷物を荷造りするのを手伝いました。インターアクトはその後ピクニックで野外料理を実施して集めた二百ドルにロータリークラブから得た同額の補助金を足してRanfurly Book Serviceに寄付しました。

○ 赤ちゃんのための本を寄贈する。

ニューヨークのEndwellロータリークラブは数年に渡り赤ちゃんのための本というプロジェクトを実施しており地元の2軒の病院で新しく母親になった女性のすべてに識字資料を及び子供にも読んで聞かせる本の詰まった買い物袋を渡しています。これまで1400以上の買い物袋が配布されました。ロータリアンは書籍の寄付を促すため書籍祭りも開催しています。また、クラブ会員はいらなくなった書籍のリサイクルを推奨し手います。

(国際ロータリー・ホームページ・RIプログラム奉仕の機会に関する綱目より転記)



・ 次回のプログラム

10月1日(土)

「家族同伴温泉例会」移動例会

会場 ニュー阿寒ホテル 18:00～

担当：親睦活動委員会

・ 点 鐘 佐藤会長

今週の会報担当：寺口美由紀会員